

西濃農林事務所の普及活動状況

平成25年11月27日現在

今月の重点活動

■きゅうり 促成栽培の巡回研究会の開催

10月30日に、海津胡瓜部会促成栽培の巡回研究会が開催され、農業普及課から、キュウリ黄化えそ病対策や今後の栽培管理等について指導を行った。

今後、11月下旬から12月上旬に抑制栽培は終了し、半促成栽培の生産に入ることとなり、定植時期は、12月中旬から下旬が中心である。キュウリ黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマ等の害虫を次作に残さないよう、植え替え作業時の栽培管理について、巡回指導等により徹底を図っている。

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 目揃会の開催

11月21日に、JAにしみのブロッコリー生産協議会員を対象に、統一目揃会が開催された。

農業普及課から、ブロッコリー新品種の試験栽培状況、今後の栽培管理及び収穫見込みについて、パワーポイントを用いて説明した。その後、調整前のブロッコリーを用いて、出荷調整の仕方や等級の区別について、JA全農岐阜及びJAにしみの担当者から説明があった。今年は、各地域で新規取組農家があり、参加者は熱心に説明を聞いていた。



【目揃え会の様子】

売れる農畜産物づくり

■小麦 適期播種を支援

現地巡回や播種前研修会により、小麦の適期播種について支援してきたが、断続的な降雨のため作業は遅れ気味となり、「イワイノダイチ」は10月22日～11月20日、新品種「さとのそら」は11月3日～21日に播種が終了したものの、「農林61号」の播種は11月中には終了できない見込みとなっている。

11月中旬以降は夜間の冷え込みが厳しくなり、東海地方の3か月予報でも、今年の冬は平年より気温が低くなる確率が高いとされており、初期生育の確保が難しくなるおそれもあるため、少しでも早い播種が実施されるよう、引き続き支援することとしている。

■トマト 各トマト生産組織で研修会開催

JAにしみの海津トマト部会は11月1日、池辺園芸トマト組合は11月11日、輪之内園芸トマト組合は11月19日に、各生産組織の研修会が開催され、農業普及課から、冬期の栽培管理について説明した。特に、品質や収量への影響が大きい、灰色かび病の防除対策について、重点的に指導を行った。

■いちご 研修会の開催

海津いちご部会では、11月7日、8日に、支部巡回研修会が開催され、部会員相互に管理ほ場を巡回し、生育状況や出荷見込みを確認し合った。管内では、11月8日より出荷が開始され、11月15日現在で、4名の生産者が出荷を開始している。農業普及課からは、二重被覆や電照、炭酸ガスの施用時期について説明した。

養老西部いちご連絡協議会では、11月12日に、視察研修会が開催され、JAぎふ佐波いちご組合及び農業技術センターを視察した。佐波いちご組合員の生産ほ場では、栽培管理について、予定時間を大幅に超過するほど熱心に、質疑応答が行われた。

■えだまめ・だいこん 牧園芸組合えだまめ部会反省会、秋冬だいこん部会目揃会の開催

10月22日に、牧園芸組合のえだまめ部会反省会が開催された。出荷量は、前年比81%と伸

びなかったが、空梅雨後の干ばつにより作付（移植や直まき）が進まなかったこと、開花期後の干ばつによる結実不良の影響が大きく、9月の大雨や、その後の台風による倒伏等も収量に影響をした。農業普及課からは、次年度に向けた管理等について指導を行った。

また、11月15日には、秋冬だいこん部会の目揃会が開催された。は種後9月の記録的な大雨による冠水、その後21日間も降雨が無く、ほ場が過乾燥となるなど両極端な気象条件、10月には台風接近による影響もあり、品質的には曲がりや、寸詰り、分岐根など規格外品が多く発生し、規格外の切り大根は現在の出荷量の7割ほどを占めている。農業普及課からは、今年の栽培経過と気象条件について説明し、今後の管理の徹底について指導を行った。

■なし 来年産に向けた生産者支援

今年は、大垣市の一部地域で黒星病の発生、ハダニ類が多発生したため、10月23日、11月5日に、地区別の研修会において、落葉の適正処理、冬季防除の実施、粗皮削り等、来年春に向けた黒星病、ハダニ類の防除対策について説明し、支援を行った。

■かき 富有柿目揃会

10月29日の午前・午後に分けて、南濃町柿部会及び養老町果樹振興会の富有柿目揃会が開催された。今年の出荷量は、去年の8割程度が見込まれている。

農業普及課からは、着色は平年並みであることを説明し、着色基準の遵守、家庭選果の徹底について啓発し、併せて、今後の管理として、剪定方法について説明した。



【南濃町柿部会富有目揃会】

戦略的な流通・販売

■家族経営協定 協定の見直しに向けて支援

女性農業経営アドバイザーから、後継者の就農をきっかけに、家族経営協定を見直したいとの依頼があり、現在の協定内容の課題・改善点について話し合っていた。家族経営における後継者の位置づけを明確化できるよう、農業経営課の農業革新支援専門員と連携して支援を行った。

今後は、見直しを行った協定書の調印に向け、支援を行う予定である。

県民みんなで育む農業・農村

■ブロッコリー 食農活動の実施

11月8日に、JAにしみのブロッコリー生産協議会大垣部会の食農活動として、青墓小学校3年生78人を対象に、ブロッコリー収穫体験が開催された。

収穫前に、農業普及課から、ブロッコリーの栽培管理、鎌を使った収穫について説明を行った。子供たちは、大きく育ったブロッコリーを収穫し、家庭で採りたてのブロッコリーを味わった。



【収穫前の説明の様子】

魅力ある農村づくり

■鳥獣害対策 獣害防止柵の設置支援

11月10日に、養老町の上方地区で開催された、獣害防止柵設置研修会に参加するとともに、研修後に行われた、地元住民による猪鹿無猿柵の設置について支援した。

果樹振興会の役員など生産者だけでなく、非農家の団地住民も多数参加しており、地元で実施できる対策について検討するなど、地域ぐるみでの鳥獣害対策が行われた。



【猪鹿無猿柵設置作業】